

キトラ古墳壁画の剥ぎ取り及び保存管理について

I. 古墳壁画保存活用検討会保存技術WG（第1回）（H20. 10. 8） における検討課題

○ 泥の下に残された可能性の高い十二支の剥ぎ取りについて

（1）剥ぎ取りの方針

壁面から泥も含めて剥ぎ取りを行うこと。

（古墳壁画保存活用検討会で了承（H20. 8. 13））

（2）剥ぎ取りの方法

（3）剥ぎ取り後の保存処置方法

○ 各壁画の剥ぎ取りの順序について

（1）余白部分の剥ぎ取り順序

（2）床面の剥ぎ取り

○ 剥ぎ取ったキトラ古墳壁画の今後の保存管理について

（1）剥ぎ取った壁画の当面の保存

当分の間、現在の保存環境を維持すること。

（古墳壁画保存活用検討会で了承（H20. 8. 13））

（2）中長期的保存処置

（3）剥ぎ取り後の壁画の状態変化（濡れ色が失われていること等） の要因分析

Ⅱ. 古墳壁画保存活用検討会保存技術WG（第1回）（H20.10.8） における検討結果

1. 泥の下に残された可能性の高い十二支（東壁：辰、南壁：巳、西壁：申）の剥ぎ取りについて、壁面から泥も含めて剥ぎ取りを行った上で適切に管理し、絵の露出方法（泥上に残すか、漆喰上に残すか）については、露出するかどうかも含めて今後さらに検討が必要とされた。
2. 天井天文図の剥ぎ取り終了後の剥ぎ取り順序については現場の判断を優先して行うことが適当とされた。
3. 剥ぎ取った壁画の保存管理については、現在の保存環境を維持した上で、顔料と漆喰層に影響がない範囲で、ゲルと泥を顕微鏡下等で除去していくことが適当とされた。
4. その他、以下の意見があった。
 - 泥の下の十二支について、泥ごと剥ぎ取った後、X線等による調査を行ってはどうか。
 - 床面の漆喰には棺台の痕跡が残っており、今後調査した上で剥ぎ取りについて検討して行く必要がある。
 - 濡れ色を取り戻すことは技術的に可能だが、現段階で濡れ色に戻す必要はない。

Ⅲ. キトラ古墳壁画の剥ぎ取り及び保存管理に関する今後の方針

○ 泥の下に残された可能性の高い十二支の剥ぎ取りについて

- 1 泥の下に残された可能性の高い十二支（東壁：辰、南壁：巳、西壁：申）の剥ぎ取りについては、壁面から泥も含めて剥ぎ取りを行った上で適切に管理する。
- 2 絵の露出方法については、剥ぎ取った後、X線等による調査を行うなどして、絵の残存状況を確認した上で、再度検討する。

○ 各壁画の剥ぎ取りの順序について

- 1 天井天文図の剥ぎ取り終了後の剥ぎ取り順序については現場の判断で行う。その状況については、逐次、本検討会へ報告する。
- 2 床面の剥ぎ取りについては、棺台の痕跡などの考古学的な調査を行った上で、剥ぎ取りの是非について再度検討を行う。

○ 剥ぎ取ったキトラ古墳壁画の今後の保存管理について

剥ぎ取った壁画の保存管理については、現在の保存環境を維持した上で、顔料と漆喰層に影響がない範囲で、ゲルと泥を顕微鏡下等で除去していく。

キトラ古墳壁画の朱雀の泥の裏側に確認された 赤い顔料と墨線について

<事実>

高松塚古墳壁画仮設修理施設内において、朱雀の裏打ち作業の準備中に、表面の右端に付着している泥の裏側に赤い顔料と墨線が確認された。

(平成20年10月)

<確認された顔料と墨線について>

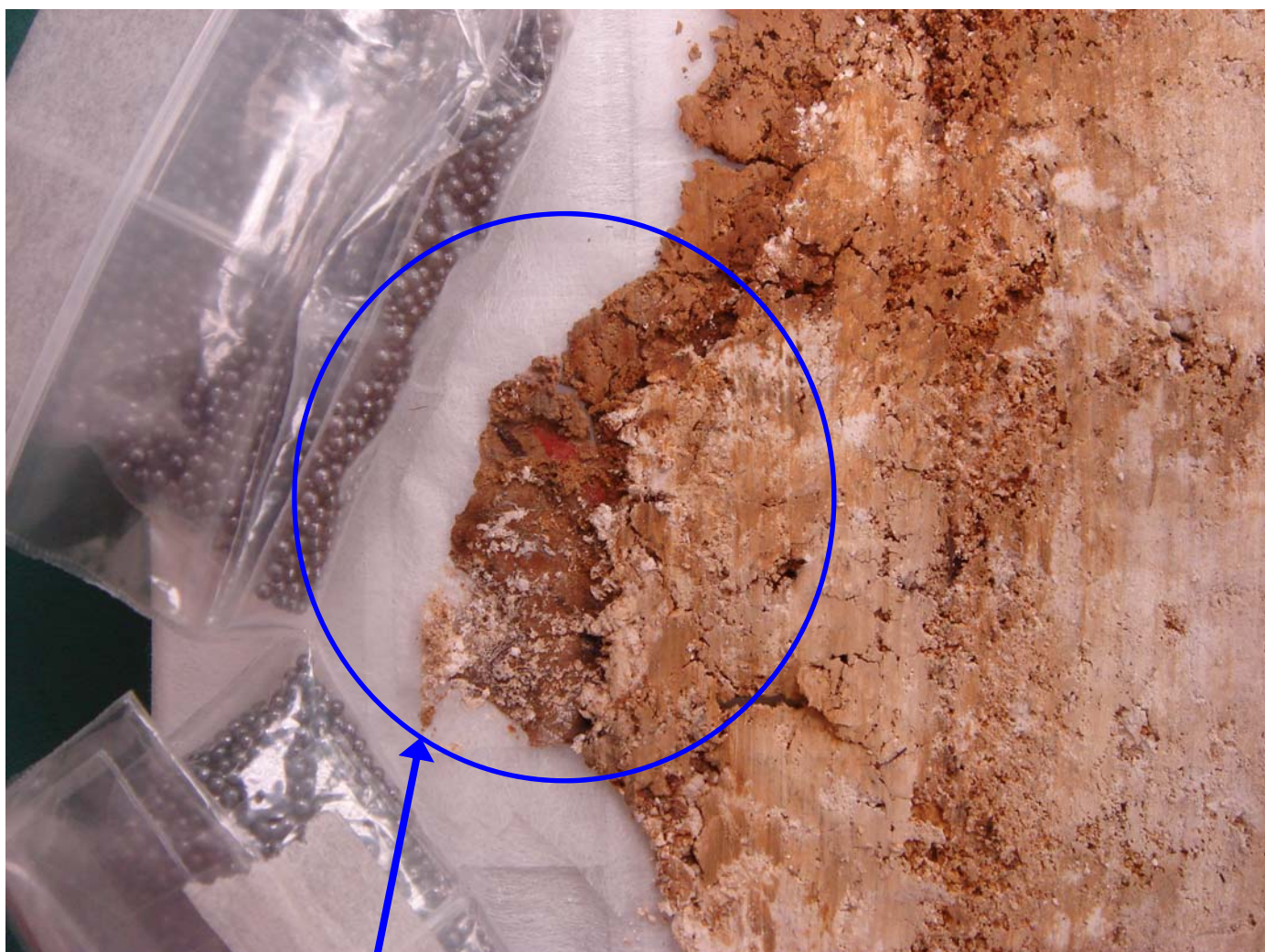
朱雀の赤い顔料と墨線である可能性が高い。
大きさは、5mm×2mm程度。

<朱雀>

- 平成19年2月に剥ぎ取りを実施。
- 現在(平成20年12月時点)は、高松塚古墳壁画仮設修理施設内の保冷库で保管中。
- 公開については、壁画の状態にもよるが、平成22年を目標に作業を実施。



朱雀(表面)



泥の裏側の赤い顔料と墨線（拡大写真：大きさは5mm×2mm程度）



朱雀（裏側）